

令和7年度やおうえるかむコモンズ推進会議
主催事業
事業視察アンケート集計結果



やおうえるかむコモンズ

調査対象 八尾市芸術文化振興審議会委員

	1. 高校合同文化祭	
	・11月8日(土)～13日(木)	・プリズムホール
	・11月9日(日)	・アリオ八尾レッドコート
	・11月15日(土)	・シルキーホール
	・11月16日(日)	・イズミヤショッピングセンター八尾
	2. まちかどライブクリエイション	
	・9月21日(日)	・きんやおマルシェ～ひろばのはじまり～
	・10月18日(土)	・おでかけひらいマルシェ
	・10月26日(日)	・ひらいマルシェ
調査会場	・11月8日(土)、9日(日)	・まちかどライブクリエイション&SDGs×ECO FESTIVAL
及び	・11月15日(土)	・かやふりフェスタ
調査時期	・11月15日(土)、16日(日)	・茶吉庵の秋まつり
	・11月15日(土)、16日(日)	・SANKARA Marche
	・11月16日(日)	・つながりフェスティバル
	・11月22日(土)～30日(日)	・笹埜能史展「自分の思い出にしか興味がない!!」
	・11月22日(土)	・ノリユラリ
	・11月23日(日)	・万博ミニフェス
	・12月6日(土)	・イズミヤ八尾ART JACK 2025
	・12月14日(日)	・古墳でコーフン! SIONJIYAMA LIVE
	・12月14日(日)	・まちかどかがやきコンサート
	・12月21日(日)	・きんやおマルシェ～MOMINOKIとキャンドルの夜～
	・11月1日(土)～30日(日)	・オンライン展覧会 (HUAHUA)

調査機関 やおうえるかむコモンズ推進会議事務局 (八尾市文化・スポーツ振興課)

Q1. 参加イベント

高校合同文化祭		まちかどライブクリエイション	
プリズムホール	2人	きんやおマルシェ～ひろばのはじまり～	0人
アリオ八尾レッドコート	2人	おでかけひらいマルシェ	1人
シルキーホール	2人	ひらいマルシェ	0人
イズミヤショッピングセンター八尾	1人	まちかどライブクリエイション&SDGs×ECO FESTIVAL	0人
		かやふりフェスタ	1人
		茶吉庵の秋まつり	1人
		SANKARA Marche	1人
		つながりフェスティバル	0人
		笹莖能史展「自分の思い出にしか興味がない！！」	2人
		ノリユリ	1人
		万博ミニフェス	2人
		イズミヤ八尾ART JACK 2025	0人
		古墳でコーフン！SIONJIYAMA LIVE	2人
		まちかどかがやきコンサート	0人
		きんやおマルシェ～MOMINOKIとキャンドルの夜～	3人
		オンライン展覧会（HUAHUA）	1人

Q2. イベントの満足度

カテゴリ	高校合同文化祭	まちかどライブクリエイション
不満	0人	1人
やや不満	0人	0人
普通	0人	1人
やや満足	2人	1人
満足	0人	1人

Q3. イベントの良かった点や気になった点

- ・万博ミニフェスは、サイバーやぐらの圧倒的な存在感に引き上げられてすべての華やぎ・賑わいが強化された。音頭（も共催のゴスペル）も、にぎわった。その上、万博のきらめきを終演後まで留めた。各会場の催しもなかなか普段見られないブースや演奏が集合して見ごたえ抜群であった。
- A委員
・笹埜能史展は、山徳の歴史あるたたずまいに、ギャップのあるかわいい催しであった。ナマケモノや団地、巨大モールス信号などギャップが楽しかった。巨大モールス信号が実際に打電（通電はない）体験できて驚いた。
・おでかけひらいマルシェもコンサートが心洗われたし、多くの人が立ち寄って見ていた。

【古墳でコーフン！ SIONJIYAMA LIVE】

・古墳という歴史的な場所でのイベント開催は、八尾の魅力を再発見できる素晴らしい試みだと感じました。一方で、冬場の屋外開催については少し懸念も残りました。冷え込みが厳しい中、長時間椅子に座る観客の体調や、寒い中で声を出す歌い手さんの負担を考えると、せつかくのパフォーマンスが最大限に発揮されないのはもったいないと感じます。今後は、参加者も出演者もより快適に楽しめるよう、開催時期を再考していただければ、さらに素晴らしいイベントになるのではないかと思います。

【きんやおマルシェ～MOMINOKIとキャンドルの夜～】

- B委員 雨の中での開催、関係者の皆様の決断には敬意を表します。賑わいが前回より落ち着いたのは天候ゆえ仕方ないことですが、このマルシェが回を重ねる中で、一つ感じていることがあります。

市民の交流の場として継続することは大変重要ですが、文化・芸術の側面から見たとき、このイベントを通じて『八尾の未来に何を問い、何を考えてほしいのか』というメッセージ性が、もう少し見えても良いのではないのでしょうか。

文化や芸術には、日常では見過ごしがちな大切なことに気づかせる力があります。すべての人が気づく必要はありません。しかし、訪れた人の数人でもいい、その心に小さな疑問や発見という『一縷の望み』を投げかけることが、結果として八尾市をより良い社会へと発展させる原動力になるはずです。

これからの『きんやおマルシェ』が、ただの市場で終わらず、八尾の精神を形作る場になることを期待しています。

【古墳でコーフン！ SIONJIYAMA LIVE】

天気は雨予報も徐々に晴れたが風が強め。しおんじやま古墳は学習館には行ったことがあったが古墳ステージは初めてでした。八尾市の職員さんが熱心に受付や対応をされているのが印象的でした。古墳ステージはすばらしく、8年前に八尾市の事業で関わった河内ウィンドオーケストラの中山くんとも再会できたと、それぞれのアーティストさんのライブもとても楽しかったです。出演者が「やおうえるかむコモンズ」のPRもしていたことが印象的でした。

ハニワ皇帝も初めて会えたがとてもおもしろかった！学習館の方に「まちかどライブクリエイション」の冊子等が置いてなくてスタッフもあまりわかっていなかったのが統一感という意味ではちょっと残念でした。

- C委員 【きんやおマルシェ～MOMINOKIとキャンドルの夜～】

雨の開催日でした。予定があったため17時半～18時過ぎの30分程度しか参加できなかったが、古墳と同じく八尾市の職員さんが主となって受付や運営などをされている印象が強く、もうすこし推進会議のメンバーが運営しているという感じになった方がいいな思いました。

天候が悪かったですが、テント内でライブを見ている十数名のお客さんたちも熱心に音楽を聞いていたり、キッチンカーのみなさんもいい雰囲気です。あいにく雨が残念でしたが、とてもいいイベントのように感じました。

また、別部署の八尾市職員さんにもお会いして、他部署でも見学に来られているのがよかったです。ライブは「オレンジハウス」さんしか見れませんでしたがいっぱい楽しかったです！

会場に足を運び、関わる皆様の熱量・活気を肌で感じることができました。多種多様なジャンルの表現活動をひとつのネットワーク（やおうえるかむコモンズ）として可視化し、市民に発表と交流の場を提供している点は、地域の文化振興において大きな一歩だと感じます。

<気になった点>

- D委員
・点から面への広がり：会場を一步出ると、地域住民にこの事業の意義や楽しさが伝わっている気配が薄いように思います。
・地域主体の欠如：「行政サイドから用意された場所で、特定の人たちが楽しんでいる」という構図に見え、地域コミュニティを巻き込んだ持続的な動きに繋がるか不安が残ります。

Q4. 本事業の今後についてのご意見やご助言

展示は、対話型鑑賞があると良いのではないかとお勧めします。

A委員 笹埜能史展で思ったが（できれば作家による作品にまつわる思いが聞けるともっと理解が深まる。）、高校合同文化祭の展示でも、あると良い。意図が理解でき、それを媒介に作者・鑑賞者が対話することで、そこに共感・交流や絆が生まれる。

他会場のライブクリエイション担当者の人が来た場合にも横の交流や共感が生まれ、コモンズが促進するのではと思う。今回行けていない他の展示でも同じだと思う。

小國さんにノウハウを伝授してもらえるのではないのでしょうか。伝授してほしい。

今年度（2025年）、八尾市では多くの素晴らしいイベントが開催されました。

B委員 一方で、市民が「自ら主役となり表現する側」として能動的に参加する機会は、まだ少なかったように感じます。その中で私が感銘を受けたのが「高安能」での試みです。上演前に行われた「まち歩き」や「神社の解説」は、八尾の歴史的背景を深く知ること、鑑賞時の感動を何倍にも膨らませる素晴らしい仕掛けでした。熱心に耳を傾ける来場者の姿こそが、文化が根付く瞬間なのだと確信しました。

こうした「地域の背景を語り、共有する」というパッケージは、他の分野でもモデルケースになり得ます。解説を担うシニア世代は交流を通じて活力を得られ、参加者は八尾への愛着を深める。この好循環こそが、新たな地域貢献や文化活動への参加を促す鍵になるはずです。

八尾の歴史を深く知ることが、市民一人ひとりの表現や楽しみに繋がる。そんな未来を、これからのイベント企画にもぜひ反映していただきたいと願っています。

視察した2つのイベントは全体的にはとても楽しかったのですが、今後「やおうえるかむコモンズ」をもっと浸透と継続させていくために気になったところは、

①運営が八尾市さん主体になっていることです。推進会議のメンバーがもう少し前に出て、運営自体をメインで行える体制づくりが必要です。ボランティアスタッフやその他協力いただけるメンバー集めや仕組みづくりが必要かもしれません。

②事業実施にあたる予算についてですが、イベントの運営や広報をまとめて委託で事業者へ投げているとのことでした。これ自体は問題ありませんが、イベント数が増えれば増えるほど、予算は限られているので1つ1つのイベントにかかる経費が少なくなったり広報がおろそかになったりすることが危惧されます。そのあたりの仕組みを見直す必要があると感じました。

C委員 ③実施プロジェクトの見直し これは視察をしてみてようやく体感できましたが、「やおうえるかむコモンズ」はネットワークの総称、ブランド名のような位置づけだと思います。そして主催が「やおうえるかむコモンズ推進会議」。いわゆる実行委員会のようなものになります。またその中の事業として「まちかどライブクリエイション」や「高校合同文化祭」がありますが、まちかどライブクリエイションの中にもまた、さまざまなイベントがあり、そのイベント自体も推進会議が企画・運営するとなるとかなりのボリュームになります。

例えば「きんやおマルシェ」に参加して思ったのは、当事者として考えた場合「きんやおマルシェ」をPRすればいいのかが「まちかどライブクリエイション」をPRしたらいいのかが「やおうえるかむコモンズ」をPRしたらいいのかが正直わからなくなりました。「まちかどライブクリエイション」という枠組みはとてもいいと思うので、その中に高校合同文化祭も入れて、1つの柱をつくりつつ、コンテンツを運営するメンバーと、「まちかどライブクリエイション」自体を企画・運営するメンバーを棲み分けて、「やおうえるかむコモンズ」はあくまでネットワークの総称または主催者名みたくにして、知らない人が聞いたときにわかりやすい仕組みにする必要があるなと感じました。

D委員 実働に対する賛辞は惜しみませんが、本事業が「八尾市として向かいたい本来の方向」と合致しているか、今一度すり合わせが必要だと感じます。単なる「にぎわい創出」がゴールなのか。それとも、アートを媒介とした「市民の自己変容」や「新たなコミュニティ形成」などを目指しているのか。

現在の状態では、前者の「イベント消費」に留まっているように感じており、行政施策としての戦略的な「投資対効果」が見えにくいものという印象を拭えません。

Q5. 参加者（高校生、パフォーマンス実施者、ブース出展者等）へのメッセージ

・レッドコートダンスとかすごかったです。プリズムの展示も見ごたえ、バリエーションがあり楽しかった。

A委員 ・ミニフェスの、縄文・弥生式土器が触れるコーナー（対象外かもしれませんが）は、震えた。普通ガラスの奥に大事にしまっている文化遺産をこの手で触れたのは貴重。他でできない企画をありがとうございました。

今回のイベントにおいて、特に心に響いたのは高校生たちの活躍でした。

B委員 参加した高校生にとって、多くのお客様が注目する舞台に自ら演者として立つ経験は、何物にも代えがたい財産になったはず。人前で表現することで、自分の未来像をより具体的にイメージし、「もっと色々なことに挑戦してみたい」という前向きな芽生えがあったのではないのでしょうか。

若者が地域の中で主役になれる機会があることは、彼らの自己肯定感を育むだけでなく、八尾市の未来を明るく照らす一縷の望みになると感じています。

視察のときは、風が強かったり、雨がひどかったりしましたが、みなさんイベントと参加してくれているお客さんのために一生懸命パフォーマンスされていてとてもよかったです。ありがとうございました！フードも人気で、なかなか買えなかったりもしたので、もっとたくさんのお店（すべて八尾市内のお店だったのでしょうか？）が来店されるといいなと思うし、もっと八尾市内のお店であれば、購入時にPRいただいてもいいなと思いました！それはまちかどライブクリエイション全体の企画の課題かもしれません。

当日の皆さんの情熱的なパフォーマンス、献身的な動きには目を見張るものがありました。

D委員 時間とエネルギーを掛けて、形を作り上げ、当日の賑わいを生み出すパワーには心から敬意を表します。これからもその熱量を育んでいかれたなら、人生においても、その副産物として地域においても価値あるものにつながるのではないかと思います。お疲れ様でした。

Q6. その他

昨今のイベントを拝見し、マルシェ主体の形式が主流となっていることに一つの懸念を感じています。集客面では成功と言えますが、どの地域でも見られる似たようなフォーマットが一般化しつつある現状に、疑問を禁じ得ません。

B委員 本来、文化や芸術を花開かせるには、何年もの試行錯誤という時間が必要です。関西万博のように、短期間での「成功体験」が重なりすぎると、地道な熟成を妨げることにならないでしょうか。

八尾市には、市民が当たり前だと思っている場所や歴史の中に、外部の目から見れば驚くほど新鮮で魅力的な資源が眠っています。そうした「外からの視点」をカンフル剤として取り入れ、内輪の盛り上がりには留まらない、八尾独自の文化・芸術が真に芽吹くことを切に願っています。

C委員 次回の審議会でどのようなことが話されるのか、またその先の八尾芸術文化祭（仮）がどのようなものになるのか、早く協議して仕組み化しないと、巻き込むべき人たちに全体を理解してもらえず広まらない可能性があるのでは、しっかり決めていければいいなと感じました。

D委員 現状の実動は、単発のイベントや発表会（点）の集積に留まっており、地域全体への波及や、他分野との具体的な融合（面）が見えづらいと感じました。ポータルサイトにも掲げている全体ビジョンを真に体現するための、次の一手（プロデュースやキュレーションの強化）について、今後の戦略をお伺いしたいです。
